

きつつきの商売

林原 玉枝 作・村上 康成 絵

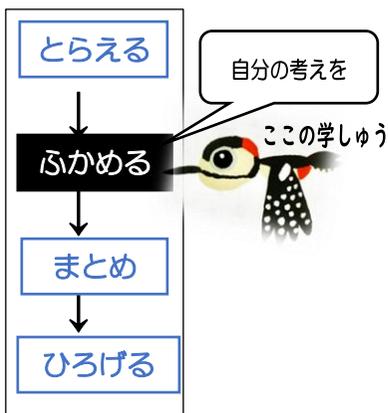
読む力

- ①場面のようにすを思いうかべながら（そうぞうしながら）、音読する力。
- ②文しよを讀んで、登場人物の気もちを考える（そうぞうする）力。

その力をつけるために・・・

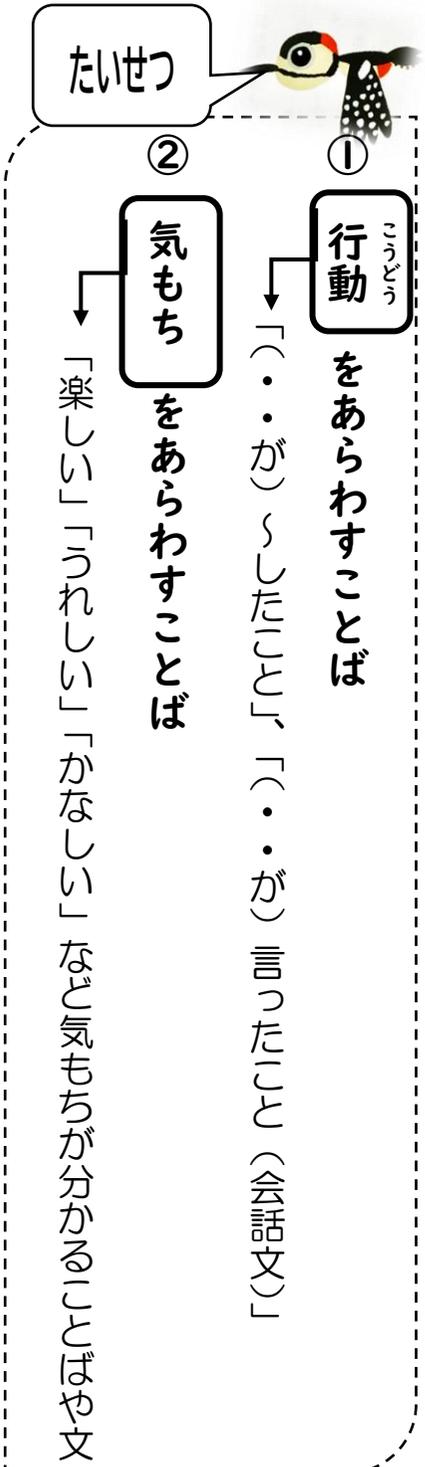
【めあて】「2」場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうしよ。

このプリントでも、場面をくわしく讀んでいきましよう。



ふりかえり

場面のようにすや気もちをそうぞうするときには・・・



「2」場面も、「行動」や「きもち」のことばをさがして、場面のようすや気もちをそうぞうしていきましよう。

◎下の本文の中で、あてはまることばや文に、それぞれ色の線（サイドライン）をひきます。

①きつつきの行動（きつつきがしたこと・言ったこと）↓みどり色

②野ねずみたちの行動（野ねずみたちがしたこと・言ったこと）↓赤色

③まわり（ぶなの森など）のようすがあらわれていることばや文↓青色

*聞こえる音も「まわりのようす」だよ。

【「2」場面とちゅうから】

「さあ、おねがいたします。」

「かしこまりました。」

葉っぱのかさをさした十ぴきの子ねずみたちは、きらきらしたきれいな目を、そろってきつつきにおけました。

「さあ、いいですか。今日だけのとくべつな音です。お口をとじて、目をとじて、聞いてください。」

みんなは、しいんとだまって、目をとじました。

目をとじると、そこら中のいろんな音が、

いちどに聞こえてきました。

ぶなの葉っぱの、

シャバシャバシャバ。

地面からの、

パシパシピチピチ。

葉っぱのかさの、

パリパリパリ。

そして、ぶなの森の、

ずうっとおくふかくから、

ドウドウドウ。

ザワザワザワ。

「ああ、聞こえる、雨の音だ。」

「ほんた。聞こえる。」

「雨の音だ。」

「へえ。」

「うふふ。」

野ねずみたちは、みんな、にこにこなずいて、それから、目を開けたりとじたりしながら、ずうっとずうっと、とくべつ

メニューの雨の音につつまれていたのです。



◎「2」場面の行動やようすから、あなたは、どんなことをそう
ぞうしましたか。音を聞かせた「きつつき」と、音を聞いた「野ね
ずみたち」はどんな気もちになったでしょう。ふき出しにそれぞ
れの気もちを書きましょう。
